

## 全国学力・学習状況調査結果の分析

4月17日（木）に行われました「全国学力・学習状況調査（全国の中3、小6対象）」について、本校の結果から校内で分析した内容についてお知らせします。

### 【教科に関する調査より】

#### ＜国語＞

- ・「知識・技能」においては、「我が国の言語文化に関する事項」について、他の事項より高い正答率が見られました。一方、「思考・判断・表現」においては、問題の形式では「記述式」に特に課題が見られました。目的や意図に応じて読み取ること、文章全体の構成をとらえることに関する設問の正答率が特に低く、文章を読み取る力が不足していることがわかりました。
- ・本校では、「自分の言葉でまとめを書く」をテーマに各学年の実態に合わせて、授業改善を図るとともに、「教科書の文章を正確に理解する力」の向上を目指して、音読や詩の暗唱などに力を入れています。今後も一層、努めて参ります。

#### ＜算数＞

- ・「知識・技能」においては、「データの活用」の領域について他の領域より、高い正答率が見られました。伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができている。一方、「思考・判断・表現」において、特に「記述式」の問題に見られました。算数科の既習事項が十分に定着していない実態も見られ、記述するための前提知識が少ないことも要因として考えられます。
- ・この結果を踏まえ、問題文を読む際には、示されている条件とその問題で問われていることを明確に区別することができるよう、指導の充実を図っていきます。

#### ＜理科＞

- ・「思考・判断・表現」において、「地球」を柱とする領域について、特に「記述式」の問題形式に高い正答率が見られました。昨年度から、理科の授業の中で実験結果に対する考察を書くことに力を入れてきたことが関係していると考えられます。一方、「知識・技能」において、「エネルギー」を柱とする領域に特に課題が見られ、電磁石に関する事項の知識について、定着が不十分であることがわかりました。

### 【児童質問紙より】

- ・教科を中心とした学力・学習状況では、意識面では学習に対して非常に肯定的に考えていることがわかりました。
- ・その教科が「好き」「どちらかといえば好き」と答えている割合が国語・理科では約90%、算数は少し下がるが約70%となっていました。苦手ではあるが、学習は好きと前向きにとらえていることがわかりました。
- ・質問1～3（朝食の摂取、就寝・起床の時刻）でも肯定的な回答がそれぞれ90%ほどであり、生活習慣が整っているととらえている実態がわかりました。
- ・質問8「人が困っているときは進んで助けていますか」では、「当てはまる（71.2%）」「どちらかと言えば当てはまる（26.9%）」となっており、思いやりの気持ちが育っていることがわかりました。
- ・読書、家庭学習に関する項目はほぼ全国平均並みであり、学力向上のためにも意識をより高めていきたいところです。
- ・質問5「自分にはよいところがあると思いますか」では、唯一、肯定的な割合が低く、否定的な回答が高くなった質問でした。全体的に、物事を前向きにとらえることができる傾向が強い集団であるため、自分自身のことも肯定的にとらえられるような働きかけをしていきます。
- ・今後も、日々の教育活動・生活指導を充実させ、心身とも健やかな児童の育成を図っていきます。